

デフレに便乗した輩

連休中に群馬県藤岡市の関越自動車道で高速ツアーバスが道路脇の遮音壁に激突し、乗客7名が死亡、38人が重軽傷を負う大事故が起きました。直接の原因は運転手の居眠り運転ですが、ずさんな管理体制が次々と明らかになってきました。大きな事故が起こるときはいろんな問題が複合的に重なることが多く、今回もその可能性が高いと思われます。

高速ツアーバスは数年前に規制緩和があり、その安さと早朝に目的地に到着するという利便性から利用者が急増し、価格競争も激化しているという。今回の事故について、現段階では居眠り運転と過労運転との因果関係は明らかではありませんが、価格を抑える為に人件費の抑制もされ、金沢から目的地の東京ディズニーランドまでの約500キロもの距離を一人の運転手が行う予定であったといえます。

国交省の指針では一人の運転手が運転するのは1日最大670キロ、上限9時間とされていたようです。指針の枠内ではありましたが、他のバス会社へのインタビューでは「この距離で運転手1名というのは考えられない」という報道がありました。しかし、乗客は運転手が1名か2名というのは予約の段階では分からず、しかも、今回の事故の運行形態は旅行会社がバス会社に委託する形式になっていたようで、どこのバス会社に委託するかも利用者にはわかりません。結局利用者としては、値段と企画する旅行会社に対する信頼度で判断するしかありません。今回の料金は1席3,500円、金沢—東京間を在来線特急と新幹線で乗り継いだ場合の指定席料金は13,010円ですから約1/4と破格の料金です。一人ならまだしも、家族4名となるとこの差は大きいし確かに魅力的ではありますが。

私も以前2回高速ツアーバスを利用して大阪から東京まで行ったことがあります。金額は片道6,500円で、新幹線の約半額、航空機の正規運賃の約1/4といったところでしょうか。このバス会社は運転手さんが2名おられて交代で運転されていました。ネットで手軽に料金や座席数など選べて、もっとも安いもので4000円くらいのものもあったと記憶しておりますが、あまりにも安すぎるのでちょっと不安があったのと、座席が4列シート(私が選んだのは3列シートでフルリクライニング可能のタイプ)で窮屈そうだったので敬遠しました。

事故後も利用者は絶えないというツアーバス。若干の不安はあるものの、やはり格安料金が魅力なのでしょうか。テレビのコメンテーターは、「安さには裏があると認識すべし」や「安全にはコストがかかるもの」などとお決まりのセリフを並べますが、単に「安かろう悪かろう」や「自己責任」で片付けられる程単純なものではないと思います。同業者や専門家ならまだしも、素人の利用者には低価格の仕組みが通常理解できません。しかも、今回の事故は自損事故でしたが、もし他の車に衝突したり、一般道で民家や歩行者に突っ込んでいたら、乗客以外の被害者は何をどう注意したらいいのか、という疑問も残ることになるのでは。

値段が高い業者なら安全か？4~5年間に起こった船場吉兆事件では牛肉の産地偽装や客の食べ残し料理の使いまわしがありました。30年前に遡ればホテルニュージャパんで火災事故では安全面を軽視した設備であったことから多くの犠牲者をだしました。いずれも高級店でありながら経営者の安全を犠牲にした儲け主義が招いた不祥事です。

昨年4月には金沢の焼き肉店の格安(280円)ユッケによる食中毒事件において、5人が死亡し24人が重傷となりました。その焼き肉店は、事件の起きる数日前にはテレビのバラエティ番組で紹介され、「とても激安店とは思えない高級店並みの接客」と出演者が同店を絶賛していたという。その番組をみて何の疑問もなく来店した客も多くあったに違いないと思います。

大阪—韓国を5千円代で飛ぶLCC(格安航空会社)、「牛丼1杯250円！」に群がる客、私もよく利用する一皿100円均一の回転寿司店には週末には行列が出来ます。これらはまさしく「企業努力による低価格の実現」であると思われます。低価格そのものに価値を見出す価値観が蔓延する社会現象のなかで、「激安」「格安」などバブル時代にはなかった広告が氾濫しています。安全意識の低い経営者が起こしたバス事故やユッケ事件は、単にデフレに便乗した輩であり、企業努力による格安と、ずさんな安全管理による格安とは切り離して考えるべきです。こういう時代だからこそ、消費者にはよりしっかりとした眼力も必要になってきます。